



中古品に潜む危険！リユース時の注意 ～安全で持続可能な社会を目指して～

1. 事故の発生状況

2015年度から2019年度の5年間にNITEに通知のあった製品事故情報^{※1}のうち、九州・沖縄8県で中古品の事故は合計26件^{※2}ありました。

(1) 県別および年度別事故発生件数（表1）

表1 中古品の事故の県別および年度別事故発生件数（2015～2019年度）

発生年度	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計	
2015年度	5	0	0	1	0	1	0	0	7	
2016年度	4	0	0	1	0	0	0	1	6	
2017年度	0	1	0	0	1	0	1	1	4	
2018年度	1	0	0	1	0	1	0	0	3	
2019年度	2	1	2	0	1	0	0	0	6	
合計	事故件数	12	2	2	3	2	2	1	2	26
	火災件数	[12]	[2]	[1]	[3]	[1]	[2]	[1]	[2]	[24]

※1:消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

※2:重複、対象外情報を除いた事故発生件数

(2) 県別および被害状況別事故発生件数（表2）

表2 中古品の事故の県別および被害状況別事故発生件数（2015～2019年度）^{※3}

被害状況	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
人的被害	死亡	0	1	0	0	0	0	0	1
	重傷	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽傷	1	1	0	0	1	0	0	3
物的被害	拡大被害	6	0	1	1	1	1	2	13
	製品破損	5	0	1	2	0	1	0	9
被害なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	2	2	3	2	2	1	2	26

※3:表2において人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 中古品の事故事例

(1) リコール対象製品の事故：2016年7月（福岡県、40歳代・男性、製品破損）

【事故の内容】

使用中の電子レンジから出火した。

【事故の原因】

電子レンジを使用する際に、扉を開閉し、電源の入切が繰り返されることでドアの開閉を検知するスイッチが接触不良となり、スパーク（電気火花）が発生し、トラッキング現象（絶縁破壊による短絡）が起こり、出火に至ったものと考えられる。

(2) リコール対象製品の事故：2018年1月（沖縄県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

電気ストーブを使用中、電気ストーブ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

電気ストーブの強弱切替え用に使用されているダイオードが不良品であったことにより、ダイオードが異常発熱し、出火したものと考えられる。

(3) 経年劣化の事故：2019年4月（長崎県、40歳代・女性、製品破損）

【事故の内容】

石油ストーブを消火時に異音が生じて出火した。

【事故の原因】

石油ストーブのしんがやせ細って極端に短くなった状態で使用されていたため、消火時（しん降下時）にしんの火種が消えきらず、油受皿内に滞留していた気化灯油に引火したものと考えられる。

なお、当該製品は約30年前に販売を終了しており、取扱説明書には、「しんは消耗品である。消火しない等の現象が発生した場合に処置できない時は販売店や相談窓口にお問い合わせる。」旨、記載されている。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構」＋「NITEのロゴ」としてください。

（本件に関するお問い合わせ先）

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 担当者 矢代、原田

電話：092-551-1315 FAX：092-551-1329